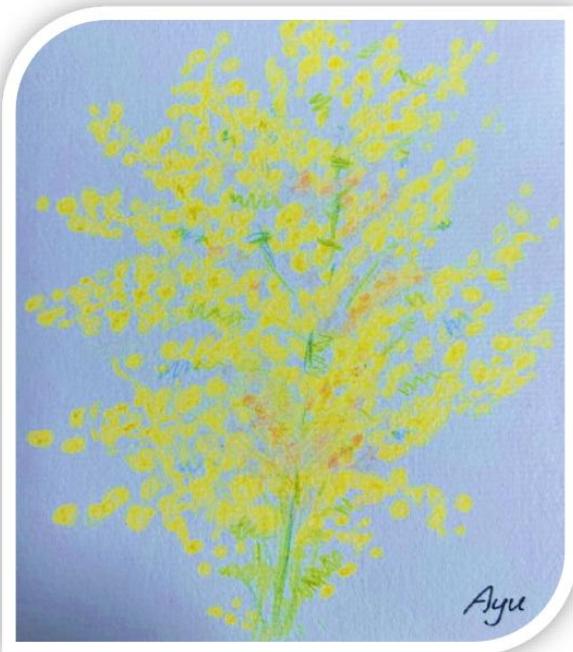


KSKQ

エヌピーオー NPOちゅうぶ 通信

ねん がつごう
2025年3月号



ちんもく 沈黙の50年上映会チラシ
しょうがいしゃきほんほうかいせい 障害者基本法改正へ大きな手ごたえ
かん ひと たいせつ アメニティで感じたこと 人を大切にする
かいさい い ぎ かん アメニティフォーラムの開催意義を感じた
せんにゅう アメニティフォーラム潜入レポ
さん か ほう こく アメニティフォーラム参加報告
うめだ きょうばし きほんこうそう 梅田、なんば、京橋の基本構想がおわった
しんおおさかえき 新大阪駅ホームの段差と隙間検証会 だんさ すきまけんしょくかい
ちゅうおうせん メトロ中央線の夢洲駅を視察しました
かた じむきょく こつぼたくへい ちゅうぶを語る 事務局 小坪琢平

とくべつしえんきょういく 特別支援教育サポーター事業スタート
むじんえき こま 無人駅で困ることについて講演
じょせいしおがいしゃ 女性障害者ピアカウンセリング講演会
おおさかじょうてんしゅかく かいたんほじょとく 大阪城天守閣での階段補助取り組み
くるまいすじんりき いしだんごうりゃく しんぶん 車椅子人力で石段攻略 新聞
きどみちお 木戸通雄の部屋
マノスタ
きょうりょくかいひ 協力会費 カンパ
へんしゃうこうき 編集後記

ゆうせいごほう もんたい ぜんめんかいけつ ひがいしゃ ほしょうほう
優生保護法問題の全面解決へ・被害者に補償法をとどけよう！

えいが 映画 沈黙の50年

ぐに そ い ひと
～国から子どもをつくっていけないと言われた人たち～

じょうせいがい

上映会＆トーク

手話通訳・文字通訳あり

参加者会費：1000円

※介助者と小学生以下は無料

会場にて現金のみ

【字幕・音声付き】

【字幕・副音声つき】

申込方法は裏面へ→

日時

2025

年

5月16日(金)

場所

大阪府立福祉情報
コミュニケーションセンター
住所（大阪市東成区中道1-3-59）

タイムスケジュール

13:00～ 受付開始

13:30～14:45 第一部：あいさつと映画上映

14:45～14:55 休憩

14:55～15:25 第二部 ①



こうえきしゃだんはうじんおおさかちょうりょくしょうがいしゃきょうかわい じょうにんりじ ながおかまさと こうえん
公益社団法人大阪聴力障害者協会 常任理事 中岡正人さんの講演
ちょうかくしょうがいしゃ じょうきょう
聴覚障害者のおかれられた状況について

15:25～16:05 第二部 ②

ていいじーあい にほんかいぎ ふくぎちょう おのうえ こうじ こうえん
DPJ日本会議 副議長 尾上浩二さんの講演
くに こうどうけいかく さべつこんせつ とく
「国・行動計画と差別根絶への取り組み」

16:05～16:20 質疑応答～クロージング

申込の
Googleフォーム
はこちら→



主催：公益社団法人大阪聴力障害者協会、おおさか旧優生保護法を問うネットワーク、旧優生保護法被害大阪弁護団

2025アメニティーフォーラム

障害者基本法改正に向けて、大きな手ごたえ ～あらゆる取っ手に手をかけて進もう～

おお

て

おのうえこうじ
尾上浩二



「へんかというものは、私たちがわたし思うようなスピードでは、決してけつ起こらない。ひとびとが一緒にいつしょって、戦略を立て、分かち合って、あらゆる取っ手に可能な限り手をかけてみて…はじめて

へんか お
変化は起こるものだ」

これは昨年逝去された自立生活運動の国際的なリーダーであるジュディヒューマンさんのことば。この言葉で思い出すのが、2013年の障害者差別解消法制定です。差別解消法抜きで権利条約が批准される一歩寸前のところ、アメニティーフォーラムでの国会議員セッションで自公民の障害者政策の責任者が合意して、一気に制定に向けて動き出したのでした。

■障害者基本法改正への手応えを感じた国会議員セッション

今回のアメニティでも「アメニティーフォーラムと27つの法律」とのテーマで自公の障害者政策を担う国会議員(含む元職)によるセッションが開催されました。今年は、さらに厚労省の障害保健福祉部長、内閣府の統括官の参加も得て、盛りだくさんの内容でした。これまでのセッションをきっかけに制定された法律をふりかえるとともに、内閣府からは昨年12月にまとめられた「障害者に対する差別や偏見のない共生社会の実現に向けた行動計画」の概要の報告がありました。「ヒアリングで障害者の皆さんから意見を伺ったが、共に学び育つ教育の必要性を共通してご指摘頂いた」との説明がありました。

私は、育成会会長の佐々木さん、日視連評議員の田中さんとともに指定討論者として登壇しました。限られた時間でしたが、「2011年に障害者基本法が改正されたことをベースに、差別解消法や改正障害者雇用促進法、障害者文化芸術推進法、情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法などが制定されてきました。国連からの勧告に加えて、昨年7月に優生保護法を断罪する最高裁判決が出された今、さらに前に進むためには障害者基本法再改正が不可欠」と訴えました。また、弁護士でもある田中さんからは「司法における配慮的手続きを障害者基本法に明記すべき」との意見提起がありました。

内閣府の障害者施策を担う部署のトップである統括官が出席したセッションで、こうした提起ができたことは大きな意味がありました。出席された議員からも、「2011年の基本法改正時のように、早朝勉強会をしなければいけない」といった発言もあり、大きな手応えを感じたセッションでした。

今後、障害者政策委員会や各政党での検討がどう進められるか注目する必要があります。差別解消法の時のように、数年後には、「この時のセッションがスタートだった」と言えるような動きを作っていくたいものです。

■知的当事者による情報発信と脱施設

糸賀一雄賞受賞記念のオープニングセッションで、パンジーメディア(東大阪市)の紹介者として一緒に登壇できたのも嬉しいことでした。インターネット放送局や映画を通じて、知的障害者の立場からの情報発信を長年に渡って行ってきた功績が認められたのでした。並行して開催されたバリアフリー映画祭でも、彼らが制作した「天空へ羽ばたこう」の上映があり脱施設について考える機会となったことも、紹介しておきます。

アメニティで感じたこと～ ひと たいせつ 人を大切にすること ほか ひと しごと かんしん よ はたら 他の人の仕事に関心を寄せて働きたい

今回のアメニティフォーラム2日間の参加だったが、すごく有意義な時間だった。
ちゅうぶでも取り入れるべき視点や考え方が多く、福祉じゃない業界の実状や視点を聞けたのは個人的にも得るものがあった。

セッション全体みて（全部を見たわけではないが…）感じたのは、「人を大切にする」という事を、言葉を変えながらも、それぞれのセッションで伝えていたと思う。それは利用者を大事にするというだけでなく、働いている支援者や、これから働いてもらいたい人も含めて大事にするという意味だ。

◆ハラスメントのセッション

特に、ハラスメントのセッションは、「人権侵害は許さない」という基本と、「ハラスメントを許さない社会文化を作る」ということ、「弱い立場の被害者を取りこぼさない」ようにする工夫、ハラスメントを受けてもそれにうまく対応するのが一人前の労働者という福祉業界の誤った考え方の変革など、すべての提起が「人を大切にする」というテーマだったと思う。

誰もが安心できる「福祉」を目指して ～この業界をアップデートするための取り組みと歩み～

水流源彦（全国地域生活支援ネットワーク理事長） 村木厚子（全国社会福祉協議会会长）

進行：田島光浩（全国地域生活定着支援センター協議会会长）

◆外国人労働者と共に働くということを考えるセッション

外国人労働者の話でも、自社だけが良ければいいのでなく、働く外国人当事者の方にお金以外のメリットを提供することや、外国人の親に働く環境について説明をして安心してもらうことも「人を大事にする」というのが根幹にあると感じた。今の時代、自分たちだけがいいという考え方だけでは、やっていけないと改めて思った。

海を越えてくれた彼らとともに、現場を作る。

～外国人材受け入れにあたっての想い、

工夫、苦労、現実を率直に議論します～

吉本賀次（（株）ITA社長） 地村貴士（自立支援センター「ぱあとな」代表）

進行：水流源彦（全国地域生活支援ネットワーク理事長）

◆人の仕事に関心をもって、「助け合う」組織にしていきたい

最近、法人内でも外でも、自分たちだけが良ければそれでいい、自分の担当の仕事が上手くいっていれば他のことは関係ない。という気持ちで働いている人が多いのではないかと感じる場面がある。自分の仕事以外の事に興味がないからそうなるのではないか。もっと、興味をもって他の人の仕事に首を突っ込むことを恐れずやっていいと思う。それが、一緒にやるという姿勢につながるのではないか。困ったときに、部署が違っても、「助けてほしい」と気軽に言える組織づくりが大事だと思う。

ひとりで出来ないことを許容できるようになれば、もっと「人を大切にする」ことが出来るのではないか。

最後に、今回の街づくりのセッションで登壇した消滅可能性自治体の町長の言葉を紹介したい。

“日本人は「評論家」になる人が多い。じゃなくて皆で作っていかないといけない。未来はみんなで作っていくものだ。”

その通りだと思う。社会も街も会社も、みんなで考えて、作っていくことが大切だと思う。

それが出来る「ちゅうぶ」でありたいと今回のアメニティフォーラムに参加して強く思った。

アメニティフォーラム開催の意義を感じ取れた

障害者基本法の改正 地域移行への法制度整備が進んでほしい

ナビ 堀 篤子

アメニティフォーラムと27本の法律

衛藤晟一(自民党障害児問題調査会会長) 高木美智代(公明党顧問) 山本博司(公明党障害福祉委員会会長)

田畠裕明(元厚生労働委員長) 野村知司(厚生労働省障害保健福祉部長) 黒瀬敏文(内閣府政策統括官(共生・共助担当))

指定討論者 佐々木桃子(全国手をつなぐ育成会連合会会長) 田中伸明(日本視覚障害者団体連合 評議員・弁護士) 尾上浩二(DPI日本会議副議長)
進行:岩上洋一(全国地域で暮らすネットワーク代表)

■セッションでの熱い想いが障害者の生活を支える法制定の大きな力へ

2日目の早朝のプログラムの福岡厚生労働大臣の挨拶から始まりました。

そして、「アメニティフォーラムと 27本の法律」のセッションでは、アメニティフォーラムの場で行政(国)、国会議員、障害者団体の討論が力となって進んでいった法律の制定経過の紹介がありました。

尾上さんの話の中でも、主なものだけでも、2011年の障害者基本法の改正を皮切りに、2012年総合支援法の制定に伴い重度訪問介護の知的・精神への拡充されたこと、2013年差別解消の制定もアメニティのセッションの場での「やりましょう！！」という熱い想いを国会議員・政府が受け止めて推進して実現したこと、2021年差別解消法改正を機に設置されたワンストップ窓口の設置につながったことなどのお話をあり、とても力強く感じアメニティの意義を確認できました。

■障害者基本法の改正を目指すこと

内閣府政策統括官からは、7月3日の旧優生保護法問題の最高裁判決を受けた「障害者に対する偏見や差別のない共生社会の実現に向けた対策推進本部」の取り組みや行動計画の発表について紹介があり、今後の動きを期待したいと思いました。

さらには、尾上さんからは、10のテーマの解決を目指して、さらなる障害者基本法の改正を目指していく取り組みが今こそ重要だという話がなされました。障害者の具体的な生活を左右するこの動きを加速させないといけない、今、施設や病院に隔離されている人を一人でも多く、少しでも早く救出したいと思いました。

障害者基本法改正で解決したい10のテーマ

1. 優生思想に基づく差別・偏見のない社会
2. 地域生活の基盤整備
3. 地域移行のための居住支援
4. 住宅や小規模店舗のバリアフリーの推進
5. 同じ場で共に学ぶインクルーシブ教育
6. 共に働く雇用の場
7. 複合差別の解消
8. 障害者文化芸術のさらなる推進
9. 内閣府障害者政策委員会の機能強化
10. 障害当事者参画による施策の策定

誰もが安心できる「福祉」を目指して ～この業界をアップデートするための取り組みと歩み～

水流源彦(全国地域生活支援ネットワーク理事長) 村木厚子(全国社会福祉協議会会長)

進行:田島光浩(全国地域生活定着支援センター協議会会長)

■この業界をアップデートする取り組み

ハラスメントの発生防止の話を村木さんが自らの言葉で体験を踏まえて語ってくださいました。ハラスメントについて、「ないことにする」、「隠す」、「個人の問題にする」ということを許さない組織全体の取り組みをしっかりとすることの重要性について具体的に指摘されました。私が特に注目したいと思ったのは、ハラスメントを許してしまう背景にある文化コミュニケーションギャップを変えないといけないということでした。特に、福祉業界での男性優位の文化を変えていくこと、意思形成過程への女性の参画などすぐにでも対応すべき課題であると感じました。それぞれの職場で自分事として改革し、差別を許さない視点を確認しながら、運動を前進させる歩みを止めないことが必要であると思います。

せんにゅう ショウゲキ 衝撃？ アメニティーフォーラム潜入レポ

滋賀のプリンスホテルで政治家と障害者、福祉関係者が一堂に会する謎の祭典、アメニティーフォーラム。その実態を探るべく新人職員が潜入！むずい話連発の、しかし得難い時間となった――

1年前は会場を見渡し（なんか政治家って服が派手…？）と思っていましたが、今年は（服が地味だと秘書と間違えられるのかも…？）と予測を立てられるようになりました。自分の成長を感じます。

そんなファッショントレンドも楽しいアメニティーフォーラム（以下アメニティー）、今回は村木厚子さんのお話を楽しみに臨みました。郵便不正事件で無実にもかかわらず逮捕・起訴された「冤罪姉さん」こと村木さん。彼女は今回、「虐待・ハラスメント」がテーマのプログラムに登壇されました。

村木さんの言葉で印象的だったのが「性弱説」。この言葉は、性善説でも性悪説でもなく、人は本来みんな弱いという意味だそう。虐待加害者だってほんとは弱い。それはつまり被害者と加害者の線引きなんものはなく、誰しもが加害者になりうることを意味するんだと思いました。

そして2日目、会場に向かうと昨日とは打って変わって物々しい雰囲気。ぼ、ぼ、ボディチェックあるやんけ！ なんで！とか思いながら言われるがままに金属探知機を潜り抜け会場に入ると、壇上には福岡資磨さんという厚労省の大臣の人。話がむずい。朝からきつい。

むずい話はその後も続き、我らが代表理事、尾上さんと内閣府政策統括官の黒瀬敏文さんが登壇する「アメニティーフォーラムと27本の法律」も、正直なんの話かわからない瞬間が多々あったり。

でも知識や経験が浅い私でも感じ取れるものって確実にあって、それを実感したのは尾上さんの存在でした。いつも事務所で会うときは穏やかで、忙しいのに音楽の話とかに付き合ってくれる尾上さん。その姿を会場で見かけたとき、いつもと違う感じがしたんです。そしてその「なんか違う」は

挨拶をしたときに確信に変わりました。ビリビリと電気を放っているような緊張感と、鋭利な刃物みたいな気迫が伝わってきたのです。

アメニティーが終わって大阪に戻り、尾上さんと話す機会がありました。いつもの穏やかな表情でしたが、「内閣府の政策統括官に直接訴え、障害者基本法改正に向けて、これまでになく前向きに受け止める姿勢が見られたでしょう。今回大きく前進したね！」と語る口調は熱く、その話を聞きながら、今回のアメニティーに参加したこと、肌で感じたものはこれからきっと大きな意味を持つんだろうなと思いました。

自分の知識では追い付けない話題に触れたとき、思い出す言葉があります。大学時代、教授が言った「お前ら、わかるだけ触れようとするな。わからないことをわからないまま飲み込んで、わからないまま咀嚼しろ」というもの。

今回現場で受け取った数々の「むずい話」。それらはむずいなりに、私の中に蓄積されるはず。そしてこれから先、法や制度が変わったとき、「あのときのあの話、このことじゃん！」って気づく瞬間が来ると思います。尾上さんの「点と点が線で繋がるときが来るからね」という言葉を励みに、「むず！」って思ったり、ちょっとウトウトしながらも（コラ！）、「わからない」を丸ごと飲み込み、苦戦しながら咀嚼したいと思いました。

焼肉、ビュッフェ、クリームパン…ちゅうぶから参加者とおいしいものを食べながら、障害福祉のこれからについて話したのもいい思い出です。最後に小坪さんが滋賀で放った「池田さん、口を開けばなんか食べるかごはんの話をするかだね」という言葉で潜入レポートを終わります。失礼な！

さんかほうこく アメニティーフォーラム参加報告

こつほ たくへい
小坪 琢平

特に印象に残った講座についての概要と感想をお伝えします。

「我が国の障害者福祉が目指すものとアメニティーフォーラム」

講師：古川康（衆議院議員・国土交通副大臣）

聞き手：丹羽彩文

一般ドライバーが自家用車で乗客を有料で運ぶ「ライドシェア」という報告が興味深かった。移動方法の確保は生活する上でとても重要。都市部では色んな移動手段の選択肢があるが、過疎部や地方での移動どうするか。移動は生活に関わる。僕の実家は高槻（摂津峡の近く）で駅までの移動手段がバスになるが本数が少なく不便。地方に行くと介護タクシーは地元の障害者しか使えなかったり、土日は対応していない事や時間的な制約があり使いにくい。そういう意味ではUDタクシーに期待したいがまだまだ地方では見かけない。使い勝手のいいものが早く広まってほしい。

海を越えて来てくれた彼らとともに現場を作る。
～外国人材受け入れにあたっての思い。苦労工夫現実～

講師：吉本賢次（株）IT A 社長

講師：地村貴士（自立支援センターぱあとなあ代表）



地村さんのお話

制度は充実してきたが支える側の人材が不足。ぱあとなあでは、外国人介護者に働いていただいている（週28時間）。社協が学費を2年間出してくれる仕組みがあつて実現している。単なる人材の穴埋め的な発想ではなく、外国人介護者も定着できるように仕組み作りが大切だと感じている。ぱあとなあとしては、海外支援でスタッフの母国（モンゴル）などに行った際は、スタッフの家族と会い食事をして関係性を深めている。現状の介護体制を維持していくためには外国人介護者はとても大切。

吉本さんのお話

全国で医師や看護師の採用コンサルをしているが、介護スタッフがなかなか集まらない。日本では集まらないので海外に広げた。外国人から人材を連れてくる時、日本の介護に馴染みがないので、説明が必要。ミスマッチをなくすために仕事内容や賃金を明確にする。しかし、最近は、日本に来ないようになってきた。円安やビザが取りにくいことが一因。まだまだ日本のことを見知らない国の人たちに日本の魅力を伝え、広げていきたい。

小坪の感想

印象に残ったのは吉本さんが話されていた外国人の方が自分の国ではなく海外で介護の仕事を考えた場合でも日本を就労先に選ぶ外国人が減っているという事。介護者不足の現状を考えると個人的には外国人介護者に期待を寄せていた部分があり、それだけで介護者不足が補えるという甘い話ではないことを実感した。どの業界でもマンパワー不足なので、その中でどう人材を獲得するのか、法人全体で様々なアイデアを出し合い取り組みを継続していく必要を強く感じる。

梅田、なんば、京橋の基本構想見直しが終わりました

～基本構想が街の変化についていけない問題　たくさんの課題が確認された

昨年度の新大阪地区、天王寺地区に加え、2024年度は、梅田、なんば、京橋の見直しが終わった。ほぼ20年ぶりの大阪市基本構想の見直しであったために、多くの課題が多様な障害者から提出され、基本構想自体がもつ課題も浮き彫りになった。各ターミナル地区の委員として参加し、障大連交通部会で各地区的街歩きを企画して取り組んできた立場で、課題等を振り返りたい。

(ナビ 堀 篤子)

【良かった点①～プレ街歩きを企画　たくさんの課題が集約され、課題が明示された】

梅田、なんばの障大連での街歩きを企画し、多くのCILから参加していただいた。正式ワークショップでの現地確認ルートがとても制限されていたにも関わらず、たくさんの課題を意見として提出することができた。(京橋は地元のあるるさんが頑張って課題を整理された。)それを見て、大阪市は各事業者との調整作業を行い、課題を整理していただくことができた。

【良かった点②～継続して協議する共通課題が整理された】

梅田やなんばに共通していたのは、バリアフリールートやエレベーターの場所の案内誘導のわかりにくさだった。特に、民間ビルを使っている場合は、地上からエレベーターの場所がわからない。また、案内表示は一般向けてあって、これをたどると車椅子は道に迷う。
案内表示をどうわかりやすくするのか、無人駅が増えるなかでみんなが使えるインターホンの仕様などについて、継続課題として協議が続けられることになった。(以下、継続協議項目)

協議会において継続して検討する項目

上記の課題やワークショップ等での意見を踏まえ、国等の動向も考慮しながら、以下の項目について協議会において継続して検討し、各地区のバリアフリー化方針のもと、バリアフリー化を図ります。

分類	検討項目
1) 整備の具体化に関して、基本的な考え方等の整理が必要なもの	① 乗り換えや周辺地域・施設へのわかりやすい案内・誘導 ② 障がいの特性に応じた操作性を確保した券売機や精算機等の仕様の検討 ③ インターホンなど遠隔対応型等の双方向のコミュニケーション設備の仕様の検討 ④ 大型ベッドの設置位置や仕様の検討 ⑤ バリアフリートイレの機能の分散化の検討 ⑥ オールジェンダートイレの設置(配置・仕様)の検討 ⑦ ウェブアクセシビリティを確保したウェブサイト等による情報提供に関する手段や内容の検討
2) 関係事業者と共通認識を図ることが望ましいもの	⑧ 駅員の理解促進と接遇向上に関する検討 ⑨ オールジェンダートイレの設置に対する理解促進に関する検討
3) その他	⑩ エレベーター袖壁の仕様(有効性)の検討 ⑪ 小中学校の生活関連施設の設定についての検討

【良かった点③～京橋地区で一部前進が見られた】

地元のあるるさんが特に強く主張していた点が一部前進した。

一つは、「都島区障害者基幹相談支援センター」のあるるが生活関連施設と指定されたこと。二つ目は、京阪やJRからのメトロの乗り換え経路となっている京橋公園(コムズガーデン)の入り口のバリカ一が撤去されることとなったことである。



【課題①～基本構想と街の再開発が連動していない問題】

京橋公園(コムズガーデン)のリニューアル工事は実は基本構想のワークショップで当初まったく説明がなく、基本構想と無関係で進められていた。その進め方に抗議し、説明を求め、意見を反映した結果、一部改善したものであったが、本来は、重点整備地区(梅田地区、なんば地区、京橋地区)の中で起きた再開発については当事者への説明と意見聴取があつてしかるべきである。

しかし、これまで、街が変貌するときに障害者は置き去りなので、基本構想で検討しても、大迂回のバリアフリールートの改善や、面的なバリアフリーの推進が十分に進まない。その問題がかなり浮き彫りになった。

今後、①整備地区内での再開発については推進協議会へ報告すること、②基本構想での当事者意見を再開発計画の関係者へ伝えることなどを課題として提起した。

(主な再開発計画)

★梅田～三番街・茶屋町・阪急ターミナルビル等の再開発計画、うめきた2期計画

★なんば～「グレーターなんば」構想、南海「なんば」駅周辺の再整備計画、新なにわ線(なんば駅)の新設計画

★京橋～京阪京橋駅リニューアル計画、京阪京橋駅からOBP、大阪城公園にかけてのデッキの各交通

結節点の整備計画、イオン跡地の再整備・周辺整備計画

【課題②～事業者間の調整が必要な課題の解消や面的整備の推進が不十分】

基本構想は、多くの関係事業者も参加し、面的な整備について協議・調整を進めることに意味があるはずだが、大阪市も20年ぶりの見直しのせいか、十分に事業者間調整が行われたとは言えない。特に、今回は、大阪市の意向で、交通問題に重きを置き、建物については整備計画範囲外としたことで、建物内に広がる連絡経路や地下道などは、ほとんど改善が見られなかった。

今後、次期5年後の見直しに向けて、基本構想の枠組みを再検討し、建物も含めた面的整備を進めることができるようにさせる必要がある。

【課題③～各地区の主な積み残し課題 多数】

<梅田地区>

○東梅田からディアモールへのメインストリートへのアプローチが階段しかない。

○サウスゲートビル正面玄関からJR中央改札付近に向かっての経路、JR中央改札付近から地下街の阪神電車、西梅田方面のメイン通路へのアプローチが階段、エスカレーターしかない。

○ノースゲートビル、ルクア、アトリウム広場、カリヨン広場につながる経路はエスカレーター、階段が主経路になっており、障害者の円滑な移動が阻害されている。

○街全体を俯瞰的にみることができるバリアフリーマップの掲示、エレベーターへの番号の附番が必要。

<なんば地区>

○地下鉄千日前線東改札、近鉄東改札から御堂筋北改札付近へのエレベーターが必要。

○千日前通には民間ビル利用のエレベーターしかない(案内表示が不十分、時間制限あり)。

○街全体を俯瞰的にみることができるバリアフリーマップの掲示が必要。

<京橋地区>

○京阪京橋駅から地下鉄への乗り換え経路の円滑化(京阪京橋駅改札付近にエレベーターの設置)

○JRと京阪の間の広場から、京阪東側への移動の円滑化が必要。

だれ りょう えき めざ 誰もが利用しやすい駅を目指して

～～～新幹線新大阪駅ホームの段差と隙間検証会～～～

みなさん、こんにちは。自立生活センター・ナビの山下です。1月22日(水)に新幹線新大阪駅で、ホームと車両の段差・隙間の検証会に参加しました。

この検証会の目的は、JR東海(東海旅客鉄道株式会社)が新幹線東京駅と新大阪駅で整備を進めているホームと車両の段差・隙間縮小対策箇所等の利用のしやすさ使い勝手を評価・意見交換するという目的でした。

手動車いすユーザーの私以外に、電動車いすユーザー、簡易電動車いすユーザーも参加しました。

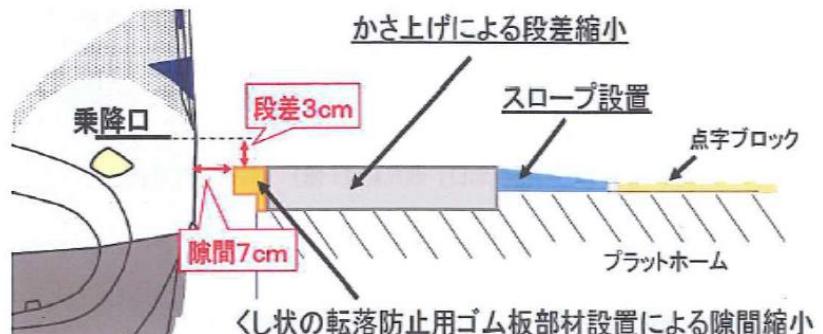
国土交通省のホームと車両の

[参考] ホームと車両の段差・隙間縮小対策の内容

段差・隙間の目指す基準は、

隙間7cm、段差3cmです。

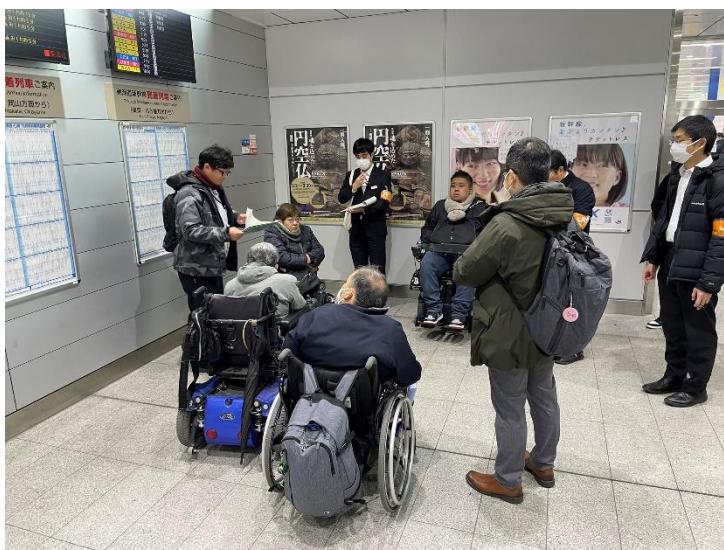
車椅子席のある11号車はほぼその基準通りでした。実際に渡し板がなくても、自分で乗ることができました。欲を言えば、さらに縮減できれば嬉しいなと思いました。



11号車以外も試しに乗せていただきましたが、最大で隙間が10cmもある車両があり、手動車いすの前輪が隙間に、はまってしまいました。車両の新しいもの古いもので段差や隙間の幅が変わってくるということをJR東海の方が言っていました。JR東海の方はとても大勢参加いただき、エコロジーモビリティ財団の方とともに、私たちの意見を聴いたり、メジャーで隙間や段差を測ったりしてとても熱心に検証してくださいました。のぞみ号が停車する駅はホーム柵などバリアフリーが進んでいます。さらに隙間と段差が解消され、自分で行きたい人が自分で乗車できるようになると嬉しいです。



また、その他の駅もホーム柵の設置、段差や隙間が解消されていくことを望んでいます。今回の
検証会のように実際に検証して当事者の意見を聞いてもらえる機会をもってただいただいて、とても
心強く思いました。



さいご 最後に、みんなで意見交換を行ない、
検証会は終了しました。

(文責:山下)

関西万博2025最寄駅

大阪メトロ中央線

夢洲駅を視察しました



がつ か 2月6日2025年日本国際博覧会協会夢洲ワークショップ主催の夢洲駅
現地確認会が開催され、万博のユニバーサルデザインガイドラインの委員
であることで、オブザーバー参加させていただきました。

今日は、多様な障害者が参加し、見て回った後に、意見交換をし、熱心に関係者の方に聴いていただきました。当事者が意見を言う場があるというのはとても良かったです。堀が気になった点を中心に紹介します。

【バリアフリールートが同じ動線でない】

広い改札を通って、コンコースに出ると、万博開催してからの雑踏が想像できるようです。明るく、広く、天井も高く気持ちいいです。しかし、一般経路とバリアフリー経路は真逆方向です。右手が幅広い階段とエスカレーター、左手がエレベーターです。そのため、壁に大きな案内表示と、音声案内もありますが、雑踏についていくと困ったことになります。



↑左写真が壁の案内



↑右写真が同じ場所の床面表示



↓コンコースから地上へのEV

【エレベーターは全部24人乗りでも袖が深すぎて残念な部分も】

ホームから改札階へのエレベーター、改札階コンコースから地上へのエレベーターはすべて24人乗りで十分な広さです。地上へのエレベーターにもモニターもついています。ただ、残念だと思ったのは、片袖であることはとてもいいのですが、袖が65cm近くと車椅子が1台隠れるほどの深さなので、単純にジャマやなーと思いました。

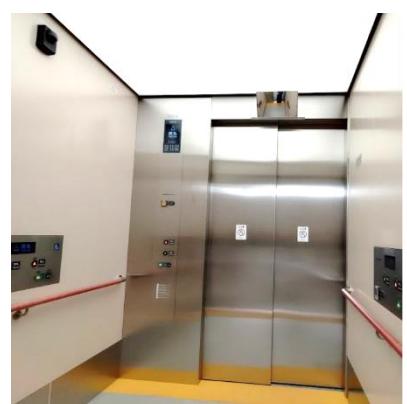
【駅の正面入口にエレベーターの案内表示がない】



夢洲駅の正面入り口

エレベーターは、通常の正面で入口の裏側にあります。

あまりにも、離れていて、わかりにくいので、正面の柱の自立つところにエレベーターの案内表示がほしいと思いました。万博の東ゲート方向から来ると、少し斜め進入なので、側面の表示が見えるそうですが、堀のこだわりでは、階段、エスカレーターの場所にはセットでエレベーター表示がほしいと思いました。改善に向けて検討いただけます。



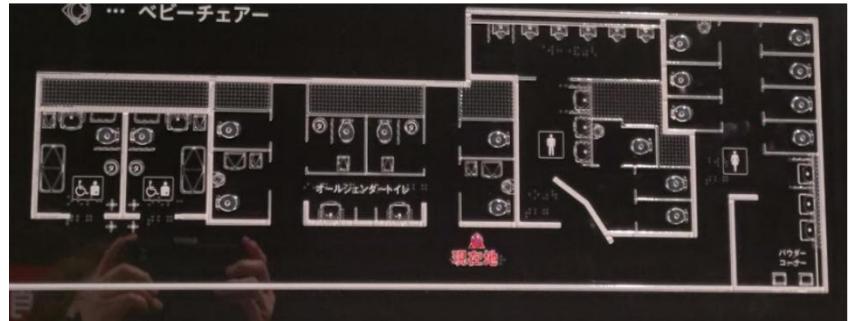
【オールジェンダートイレが設置された】

オールジェンダートイレが男女共用車椅子トイレとは
別に独立してゾーンで整備されているのは画期的だと
思いました。これは、その案内表示で、多様な人が居る

ことを表しています。作業所の和男さんは、なんでここに車いすが居ないのかと問題提起していました
が、そうですよね。人には、車いすも当然に存在することをスタンダードにしてほしい。



↑車椅子トイレは2つ
右左勝手別に配置されています



↑左から車椅子トイレ2つ、オールジェンダートイレ(幅広2つ、普通4、パウダーコーナー)、男子トイレ、女子トイレが順に並んでいる。

【トイレで少し残念だった点】

○男子トイレ、女子トイレの便房の数を見ると、女子トイレが少なすぎる。3対1ぐらいにしないと女子はいつも混む。

○広めブースの扉が狭すぎるのが残念。あと、10cm扉が広ければ、車椅子で使える人も多いと思う。

○車椅子トイレの鏡の下端が高さ110cmあって、府まちづくり条例ガイドラインの75~80cmより高い。
車椅子人は頭のてっぺんしか映らない。ポーチ置き場は高さ120cmで使いにくい。

○音声案内は広いトイレゾーンの入口で170m先が男子トイレですと案内があるだけ。男子トイレの前で
「ここは男子トイレです」と案内がほしい。



【カームダウン・クールダウンコーナーが設置された】

鉄道駅舎で設置されたのは、本当に
画期的です。今後、梅田やなんば、新
大阪駅などの大規模駅を中心に普
及してほしい。

残念なのは通路はソファ前が90cm
しかなく、車椅子では使いにくい。あと、10cm~15cm広げるだけでも違うの
になあ。



【まとめ】

見てみると色々気が付いてしまいますが、ワークショップで障害者が参画して
一緒に作りあげたというのはとても意義深いと思いました。

ちゅうぶ 40周年に際して

これまでのちゅうぶ、これからちゅうぶを語る ～事務局・理事のインタビュー 第9弾 小坪 琢平(事務局)

ちゅうぶは 2024年12月で 40周年を迎える！！

堀(編集部): 事務局や理事の方に、これまでのちゅうぶを振り返り、ちゅうぶの将来を語っていただくという趣旨です。よろしくお願ひします。

早速ですが、小坪さんは、ちゅうぶに出会うまでは、どんな歩みだったのでしょうか。

大手前整肢学園でリハビリ中心の生活

小坪: 僕は、脳性麻痺(CP)なわけですが、小中学校は普通学校に行きました。小学校4年生の時に大手前整肢学園に入所して、勉強より、リハビリが中心のような生活を送っていたこともあり、その時の勉強の遅れをあまり取り戻せませんでした。

堀: 中学校時代はしんどかったのですか。

小坪: 健常者の中に障害者である僕が一人だけ居るという感じで、普通は友達とかでない限り、そんなに人のことってわからないはずだと思うのですが、学年の健常者は全員が僕のことを知っているみたいな感じで、障害者だから注目されるというのが嫌でした。イジメにもあいましたし、面白い思い出はありませんでした。当時は障害がある自分にできることつてあるんだろうかみたいな、受け身的な性格でした。

特別支援学校高等部へ進学

堀: 高槻の支援学校に進学されたのですか？

小坪: 今でこそ、大学に行く障害者も多いですが、当時の僕の感覚では、普通高校に行くのには、結構高い壁があったという印象でした。



したいことがあったわけではなく、健常者に何かを頼む関係で生活していく自信がありました。

高校を卒業してからも、特に大学に行きたいというわけではなく、支援学校の先生に、大阪市のがんばりや生きがいの生療育センターか、堺市にある大阪府立身障センターに行ってはどうかと勧められて、街中にあった生療育センターを進路とすることにしました。

更生療育センターへ入所

堀: 更生療育センターでの生活はどうでしたか。

小坪: 脳梗塞とか中途障害の方が多くて、僕みたいな脳性麻痺は、2~3人という感じでした。18歳の僕にとっては、自分の親より年上の人たちとの共同生活という感じで、とてもしんどかったです。みなさん、中途障害の受容が難しいようで、お酒を飲みにいって、酔った勢いで喧嘩が勃発することもよくあったので、僕は、ここに居てもいいんだろうかと考えようになりました。

しかし、一緒に過ごすうちに、年上のおっちゃん、おばちゃん達にとって、僕は自分の子どもよりも年下なわけで、よっぽど生意気なことを言わなかつたら可愛がってもらえるんだなっていうことが分かつて、生きる術を身に着けたという感じでした。

片麻痺の人が多いなかで、脳性麻痺であっても両方が動く僕は重宝されていました。「ちょっと手伝って」と言われて動いているうちに、関係も良くなつていきました。

元警察官とか、元音楽のバックミュージシャンで美空ひばりのバックをやっていたとか、元やくざとか、なんか社会の縮図みたいで勉強させてもらいました。

ピアスクールの受講で平下さんに会う

堀: 今につながる転機みたいなこともありますか。

小坪: たまたま、更生療育センターに掲示されていたピアスクールのチラシが自にとまり、行きたいと思うようになりました。

主催のピア大阪へまず話を聞きにいきました。そしたら、平下耕三さん(現 NPO法人自立生活夢宇宙センター代表理事)に再会しました。平下さんは大手前整肢学園の先輩なんです。僕が子どもの頃に入所した時におられて、なんか顔に見覚えがあるんですよね。「大手前に居ましたよね」っていう感じでお話させていただくようになりました。

そのピアスクールのビラに「障害者リーダーを育成します！！」って書いてあったのですが、「障害者リーダー」ってなんだろうと、インパクトがあった言葉だったのを覚えています。

しかし、全15回ぐらいの外部のプログラムを受講するために外出するというのは、当時の更生療育センターでは前例がなく、事故が起きたら誰が責任を取るんだと問題になりました。

その時に、なんとか受講を実現させようと尽力いただいたのが川端正嗣さん(現 大阪更生療育センター副所長 理学療法士)でした。「彼には、リハビリよりも、ピアスクールに行くことの方が大事だと」と、当時の施設長にもかけあってくれました。

川端先生には、大コネ(大阪市中南部高次脳機能障がい包括ケアネットワーク)の活動とか、なにかにつけて、日常的にお世話になつていますが、このときに僕の指導PTだったという長いお付き合いなんです。



ピアカン講座で地村さんに出会う

堀: ピアスクールは受講できたんですね。

小坪: 受講できました。そして、続いて、ピアスクール修了生を対象に長居ユースで開催されたピアカン講座も受講しました。1998年頃です。斎藤雅子さんがリーダーでした。

ピアカン講座では、は地村貴士さん(現 NPO法人ぱあとなあ代表)に出会えたのが良かったです。

大阪障害者職業能力開発校へ

堀: ピアスクールとピアカン講座が大きな転機となつたんでしょうか。

小坪: いろんな学びがあったことは確かなんですが、次のステージを考えたときに、すぐに自立生活センターとは思えなくて、自分にはまだ早いと感じました。当時の世話になったワーカーは、堺市の光明池にある大阪障害者職業能力開発校を勧めてくれました。

これまで、人に相談する経験がなかったのですが、ピアスクールの事務局の平下耕三さんに相談しました。平下さんは、ちょうど夢宇宙センターを立ち上げる少し前で、CILを立ち上げるための勉強会をされました。

「小坪君は、CILの勉強会に加わってくれてもいいけど、人生経験でいうと学校生活しかないから、もっと、社会経験積んだり、人間関係を広げた方がいい

と思うよ、若いころの人間関係のネットワークは人生の宝だからね、訓練校もいいかしれんなあ」って助言をくださいました。
支援学校の高等部は1学年で24人しかいないんですね。一クラス6人ぐらいの人間関係だったので、確かに狭い人間関係でした。
訓練校に行く決心をし、寄宿舎生活をしました。

衝撃の就職活動

堀：訓練校では何を学ばれましたか。そこから就職へつながったのですか。

小坪：スーパーなどのセールP-Rによく使われますが、値段などを書くポップ作りを1年間学びました。一生懸命やって、普通に就職できるかなって思って、就職活動に臨み、10社ぐらい受けました。この時の体験は衝撃的で忘れられません。

障害者受験可になっている会社ばかり受けたのですが、面接で全然相手にされませんでした。まず、面接官は「どうやって通勤するのですか？」と聞くんです。僕は「電動車いすで通います」と普通に答えるわけですが、面接官は、「しんどいでしょう」「毎日のことですよ」「無理でしょう」とずっと言ってくるんですよ。全然普通に受け止めてくれないんですよ。諦めさせたいんだなって感じました。こんなことが2件ぐらい続きました。



それで、車の免許を取ることにしました。幸い運転試験場で、ハンドルに手を固定すれば可という結果をいただいて、免許を手にすることができました。

しかし、免許を手にしても、同じ対応が続きました。今度は、面接官に「免許の取り立ては事故が多いです

ですからね、それで通うのは無理じゃないですか」と言されました。では、「会社の近くに家を借りて住むようにします」と言ったのですが、面接官は「大阪市内は家賃高いですよ」と難色を示すんですよ。これは、僕を採用する気はないんだなと思いました。

自分も障害を受容して一生懸命取り組んだはずなのに、初めて、「障害がある人はアカン」って正面から言われた気がして、ショックでした。

面接では、通勤の話だけで、仕事の内容の話はまったくありませんでした。他には、「支援学校から来られているんですか、字は読めますか？ このパンフレットを読み上げてください」とか、「足し算、引き算はできますか」とか、何もできない人扱いでした。世間はその程度しか、障害者への理解がないんだと言ふことを思い知らされました。

ちゅうぶへ 障害を活かせる仕事をしたい
小坪：その時に、自立生活センターを思い出したのです。自分の障害は治るわけではないので、障害をマイナスにとらえながら仕事をするのは嫌だな、できれば、自分の障害を活かせる仕事をしたいと思ったのです。

堀：そこからちゅうぶにつながったのでしょうか。

小坪：ちょうど20歳ぐらいのときでした。ピア大阪に勤めておられた平下さん、東谷太さん（現 自立生活センターいこら一代表）のところによく顔を出したりになり、そのうち自立生活センターを増やすための学習会にも参加するようになりました。当時は、大阪でもまだ5カ所ぐらいしかない状況でした。あるグループワークに参加した後に川嶋雅恵（当時自立生活センターナビ事務局長）さんから声をかけられて、「うちは若手がいるからボランティアで来ない？」と誘ってくださいました。しかし、当時、僕は摂津峡近くの山奥に住んでいた

ので、「交通費ぐらいはほしい」と言うと、パートでもいいのでと、まずは、ちゅうぶを訪問させていただくことになりました。

軽い気持ちで伺ったのですが、なんと、尾上浩二（現 NPOちゅうぶ代表理事 当時ナビ代表）、川嶋雅恵、南光龍平（故人 当時ナビ当事者スタッフ ピアカウンセラー）の面接があって、週3日パート勤務させていただくことにすぐに決まりました。



ワンルームマンションで一人暮らし

堀：勤め始めて、すぐに自立したのですか？

小坪：すぐに自立するように言われましたが、なかなか車椅子で暮らせる家がみつからなくて、9ヶ月もかかりました。

やっと、見つかったのが、駅近くのワンルームマンション、風呂、トイレなど段差は少しありましたが、なんとかスロープをつけて四つん這いで室内は移動して生活できる範囲でした。

最初はILPもヘルパー利用もなし

堀：ヘルパーは使わなかったんですか？

小坪：ヘルパーは使ったことがなかったし、何を頼んだらいいのかもわからなかったので、まずは、1ヶ月ぐらい自分でやってみようと思いました。

でも、しんどかったので、すぐに使うことにしました。

堀：ILPはうけなかったのですか？

小坪：当事者スタッフは自分で自分で育てなさいという感じで、ILPはありませんでした。

ちゅうぶの障害者は僕のように四つん這いで生活する人はいなかったので、自分で考えました。ヘルパーを使いだして、最初は週3回、家事をしてもらいました。だれでも通る道だと思いますが、最初は、ヘルパーが来る前に掃除していた時期もありましたが、掃除するのがヘルパーの仕事だからと言われ、「そうかな」って気が付かされました。

スタッフという位置づけですので、自分のILPも必要なのに、他の人のILPに研修生という立場で参加していました。

たまたま、ILPの対象者に四つん這いをする身体状況の方がおられ、僕の家を見学に来ることになりました。まだ、家具も十分にそろっていない状況でしたが、「こういうふうにすれば、私も一人暮らしができそうな気がするわ」って言ってくれたんです。その時、「あ～初めて人の役に立ったな」と思えたんです。僕は、今まで、お前は軽度すぎるから自立のロールモデルにならないとずっと言われてきたんです。しかし、この体験があって、僕もCILに居てもいいかな、何かお役に立てるかなと思えました。

堀：今は、身体介護も必要ですよね。

小坪：重度化しているので、着替えとか、シャワーの時に身体を洗ったり拭いたり、大便の時の補助とかをしてもらうことはあります。体調が悪いときには、車椅子への移乗がむずかしいですし、四つ這いもできなくて、夜中も含めて、尿瓶で用を足す介助を受けていた時もあります。

障害者甲子園のようなことをしたい

堀：ナビの仕事でやりがいを感じてこられたことは何ですか？

小坪：川嶋さんには、「あなたはナビで何をしたいの？」ってずっと言わされてきました。

実は、僕は、支援学校高等部のときに、メインストリーム協会が取組んでおられた「障害者甲子園」に参加したことがあるんです。たまたま支援学校の先輩だった鈴木千春さんが一年前に参加されていて、説明会に誘われたんです。軽い気持ちで障害者甲子園に参加することになったんですが、そこで、広島の畠俊彦さん(現 障害者生活支援センター・てごーす代表)にお会いしたんです。彼は、僕と同じ歳で、僕から見たらとても重度の脳性麻痺で、「こんな重度の人が自立生活したいとか言っている」ということが衝撃でした。

障害者甲子園

自立を促すために、障害者甲子園という大会もやっています。これは、高校生の障害者を全国から50名西宮に呼んで、地元の高校生50名と一緒に3泊4日で合宿するものです。自立や人権ということを話し合い、交流します。介助もすべて地元の高校生が行います。この大会に参加するには1つ課題があるのですが、どんなに障害が重くても一人で西宮まで来ることです。移動時間が長く、途中でどうしても介助が必要な人は介助者を認めますが、親や学校の先生以外の人にして下さいといっています。これは、一人で公共交通機関を利用するという経験を積んでもらいたいためです。障害があると周りが心配して一人で移動するという経験を積むことが非常に少ないのです。本人に力がないからできないわけではありません。経験が無く、自信を持てないだけです。そこで、この機会に自分の力でやるという経験を持ってもらい、自信をつけて欲しいのです。

第22回総合リハビリテーション研究大会
(「地域におけるリハビリテーションの実践」—総合リハビリテーションを問い合わせ一報告書 佐藤聰) より抜粋

全力でILPの取り組み

小坪: そのときの感動が心に蘇って、川嶋さんに「僕はナビで障害者甲子園のような取り組みがしたいです」と言いました。すると、とても喜んでくれて、ナビで、全力でILPの取り組みを開拓するようになりました。

数名の障害者を対象に集団ILPを年間3~4ヶ月実施していきました。
食事作りや外出企画、制度学習などを色々組み込みました。当時、長谷川選手も参加してくれました。



この頃は、相談支援センターと言っても、今のように相談で忙殺されることではなく、健常者スタッフの西川淳子さんもかかり切りで一緒に取り組んでくれました。森園宙さんや福永一洋さんがちゅうぶに関わる2015年ぐらいまでは、ILPを年間の取り組みに組み入れて実施できていました。平沼遊さん(現 ナビ管理者)も2008年に採用されてから、僕のアシスタントもやっていて、ILPにも関わってくれていました。ピアカン公開講座も南光さんが中心になって開催していましたね。

当時は、とてもCILらしい活動ができていたんです。

2002年から山下大祐さん(現ナビパートスタッフ)、2009年から足立誠さん(現 NPO法人自立生活センターいこらースタッフ)、2015年から東佳実さん(現ナビスタッフ)がちゅうぶに入ってきた。

2013年から事務局員へ

堀:I LPやピアカウンセリングの取り組みの歴史があつ厚かったのですね。

小坪さんが事務局に入られたのも、その頃ですか?

小坪: 2013年に川嶋さんがちゅうぶを辞められることになり、小坪が事務局員になりました。

上限問題で東京行動

堀: 25年間という長きにわたって、ちゅうぶに関わってこられているわけですが、一番、印象に残っていることはなんでしょうか。

小坪：障害支援費制度の上限問題やグランドデザイン問題での東京行動ですね。

1日4時間以上介護が必要な人は施設が適当と厚労省から言われて、とても許せない気持ちになりました。当時、一緒によく関わっていた障害者の顔が浮かび、「アカンやろ！！」と思いました。

たとえば、ちゅうぶの中部青い芝の会例会(中青例会)に集まっているメンバーは全員が施設入所対象になるわけですよ。すごい問題だと思いました。

それで、厚生労働省に突撃だということで行ったわけですが、厚労省のフロアのロビーに人が溢れかえり、エレベーターから出られなくなって、庫内に缶詰めになりました。すごい、怒りと熱気でした。

動員というのは大阪で何百人単位でした。最低限の人数だけちゅうぶに残して総動員体制で、集会や座り込みにしようと行っていました。

編集者注釈

上限問題：2003年障害者支援費制度の国庫補助基準を検討するにあたり、ホームヘルプサービス利用時間の上限を設定する動きとなり、「24時間介護が成り立たなくなる」と、交渉をしたが決裂し、25日間、厚生労働省前での座り込み闘争となつた。真冬の気温の中を昼夜問わず、抗議行動が行われた。

緊急集会（厚生労働省1階ロビーには100名を越える障害者

支援者であふれ、集会参加者は1200名と、大規模な緊

急集会となつた。結果、「現在提供されているサービス水準

が確保される」との通知が厚労省から出され収束した。

グランドデザイン問題：「今後の障害保健福祉施策について

(改革のグランドデザイン案)が障害者自立支援法(案)という

かたちで法文化され、2005年2月、閣議決定された。応益負担

の導入について障害者団体は反発し、国会での連日の座り

込み、1万人規模の大集会を開戦した。

参考：「支援費上限問題から障害者自立支援法制定過程と

自立生活運動」白杉 眞（立命館大学大学院）

ちゅうぶ全体でやり切った感がない

堀：ちゅうぶの課題はなんでしょうか。

小坪：今年の取り組み方針が最初に明確に決まりないで、動くうちに、やることがたくさん増えるというパ



ターンが多いです。結局は、誰かが瞬発的に力を出して頑張るから、やり切るわけですが、もっと最初から計画性のある方針になっていたら、一部の人の取り組みでなく、みんなで力を合わせてできると思うんですね。

堀：年度方針をきっちり話し合って決めたいということですか？

小坪：例えばですが、今年は〇〇さんを自立させようとか、〇〇のイベントをやろうとか、それをやるんだから、今年は〇〇は省力化しようとか、そういう活動のメリハリが苦手なのだと思います。

一部の人だけが忙しくして、商業で乗り切るのでなく、みんなで力を合わせて取り組みができるような計画性を持つことが必要だと思っています。みんなで、〇〇しようって、心を寄せて一体感を持つことがないと、ちゅうぶ全体でやり切った感が持てないと思っています。

部門を超えたコミュニケーション

堀：法人としての目標や方針論議を大事にしたいということですね。それをやるために課題はなんでしょうか。

小坪：まずは、部門間の垣根を超えたコミュニケーションを活発にすることだと思います。今は、部門単位の中だけで活動が完結することが多くて、例えば、介護について、健常者も障害者も一緒になって、

部門を超えて意見交換するということも十分ではないですよね。

200万回の選択がちゅうぶのスローガンになっていますが、では、具体的にどうするのか、何を目指したいのか、コミュニケーションすることが例えれば大事ではないかと思います。

堀：職員ひとりひとりは想いがあると思うので、それをしっかりと活かしていくことが大事ですね。

当事者活動部が元気に取り組みを展開する

堀：健常者との関係でいうと、ちゅうぶは最重度の障害者を中心にして、健常者と一緒に活動を作ってきた経緯があると思いますが、さらに健常者と共に運動を進めていく上で、思うことがありますか。

小坪：昨年11月から、森園さんも、堀さんもナビに来て、当事者がナビに結集する形で、当事者活動部を作ろうとしています。

当事者活動部が元気に取り組みを展開して、そこに健常者も一緒にになって取り組める体制を法人として作るよう自指したいと思っています。

I L Pを年間を通じて実施する

ピアスクールでリーダー養成

堀：具体的に特にやりたいことはなんですか。

小坪：まず、I L Pを復活させて、年間を通じて取り組みたいですね。

それと、僕にとって、ピアスクールがとても大きな転機だったので、他のC I Lとも連携して、大阪全体で、リーダー養成をする目的でピアスクールを企画するようなことをやりたいです。

共に遊び、学ぶ人間関係を作る場

堀：ピアスクールを大阪全体でという話は壮大ですね。

小坪：ピアスクールで障害者同士のつながりができることで、障害者支援への見方が大きく変わりました。

それと、僕にとっては、同世代の若手勉強会も力になりました。

ちょうどあるを立ち上げる頃に太田康裕さん、鈴木千春さん、安原美佐子さんと一緒に学んだのがよい経験でした。障害者運動の面白さや大切さを感じ取ることができました。

だから、ピアスクールのような、共に遊び、学ぶ人間関係を作る場がとても大事だと思うんです。



強みを引き出すサポートをしたい

堀：小坪さんが若いころは、障害が軽度すぎるからあまり役に立てないと思っていたという話を伺いましたが、障害者の支援で小坪さんが考えることがありますか。

小坪：脳性麻痺“あるある”がわかるようになってきました。和男さんなんか、突然、バリアフリーの会社を作ったんだとか突拍子もないことを言うでしょう。自分はもっとできるはずだと思うわけですが、実際はできない、それは、障害のせいなのか、経験不足のせいなのか、よくわからないアンバランスさがある。でも、ストライクゾーンに入るボールを投げられたら、和男さんはとても力を發揮すると思うんですよ。だから、障害者の苦手なところを支援して、強みを引き出すことを周りがしっかり考えてサポートするのが大事だなって感じています。

ちゅうぶが地域の拠り所に

堀:運動のつながりやひろがりという意味では、小坪さんは、昨年に「目で聴く落語」の取り組みをされた時に、地域との関りを作っていくないとおしゃっておられましたが、そのあたりをさらに聞かせてください。



小坪:まだまだ、障害者と関わったことがない人が多いと思うので、法律や制度を変えるというような障害者問題だけやっていてもダメだと思っているんですね。

例えば、「目で聴く落語」のときは通所スタッフを中心っこども縁日を開いてとても好評でした。月に1回だけでも子ども食堂をやるとか、地域の中で身近な存在になっていくことが大事だと思います。そういう取り組みを通じて、助け合いや相談、防災協力など、地域との関りを深めていきたいです。欲を言えば、ちゅうぶのサポート会員になってもらって、ちゅうぶがやろうとしている活動の理解者を広げていければうれしいです。

聞き分けの悪い障害者を面白がる

堀:最後に、職員へエールをお願いします。

小坪:健常者スタッフに対しては、聞き分けのよい障害者だけでなく、周囲から何を言われても自分のやりたいことを貫くような、いわゆる「わがまま」な障害者を面白がるようなスタッフになってほしいと思います。

障害者から「やりたい」と言われたときに、「大変やから止めておこう」でなく、「オモロイなあ」と感じてくれたなら嬉しいし、「大変やったけど、やって良かった」

って思ってほしいです。

林さん(林祥用 事務局員)とか、中野さん(中野陽介 事務局員)とか、入社式のとき、「障害者との関係を楽しんでください」っていつも言っていますが、大事なことだと思います。

若い人と一緒に経験の幅を広げてほしい
堀:障害者へのエールはありますか。

小坪:通所に若い障害者が増えています。経験があまりないので、したいことがうまく言えないかったり、言ってもいいのかなって躊躇することが多いと思います。

だから、年配や先輩の障害者は、意識的に若い障害者の経験の幅を広げるような動きをしてほしいです。

歳を取ると身体もしんどくなつて通所も休んでしまいがちですが、引き続き、若い人をたくましく育てる役割を担つてほしいですね。

若い障害者は先輩を利用して、どんどんチャレンジしてほしいと思います。

そして、そういう取り組みに面白がつて参加する健常者を巻き込んで増やしていきたいですね。一緒にがんばりましょう。



堀:私も当事者活動を担う一員としてがんばります。本日は、貴重な話をありがとうございました。



じりつせいかつ
自立生活センター・ナビ
からのお知らせ

とくべつしえんきょういく 特別支援教育サポーター事業

じきょう

スタートします！

障害者団体が、大阪市教育委員会に要求してきた「通学支援」の問題について、令和7年度から「特別支援教育センター事業」で、小中学校の通学支援でも対応できることになりました。制度の概要と障大連教育部会担当の西尾元秀さんにお聞きした制度の良い点と課題点を紹介します。

(大阪市教育委員会ホームページより抜粋)

大阪市教育委員会事務局会計年度任用職員(特別支援教育センター)募集要項

1. 募集人数

- ① 時間額勤務 小学校・中学校及び義務教育学校 若干名(各校の状況による)
② 月額勤務 小学校・中学校及び義務教育学校 若干名(各校の状況による)

2. 業務内容

大阪市立小学校・中学校及び義務教育学校において、「共に学び、共に育ち、共に生きる」教育の推進に向け、特別支援教育センターを配置し、校内の特別支援教育の体制を整備し、障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が、共に学ぶしくみであるインクルーシブ教育システムの充実と推進に取り組む。

障がいのある子どもと障がいのない子どもが相互に理解を深め、互いを認め合うための支援等、通常学級および特別支援学級に在籍する個別支援の必要な障がいのある児童生徒の学習補助や生活補助(通学支援及び給食に関わる業務や摂食支援含む)等

地域に居住する特別支援学校在籍の児童生徒がいる場合の交流及び共同学習における居住地校訪問時の支援等

校外及び課外活動における障がいのある児童生徒の介助および支援等

障がいのある児童生徒に関わる教材作成や環境整備の支援等

その他学校長が指示する業務等

3. 応募資格

- (1)平成19年4月1日以前に生まれた方 (2)地方公務員法第16条(欠格条項)に該当しない方

4. 任用期間

① 時間額勤務

令和7年4月1日から令和8年3月31日までの間

※勤務実績は原則、授業日とする。

※勤務実績に応じて再度任用される場合があります。(更新は2回まで最長3年)

② 月額勤務

令和7年4月1日から令和8年3月31日までの間

※夏季休業及び冬季休業等の長期休業期間中も勤務となります。

※勤務実績に応じて再度任用される場合があります。(更新は2回まで最長3年)

5、勤務場所：大阪市立の小学校・中学校及び義務教育学校のいずれか

6、登録方法

特別支援教育センター名簿への登録にあたっては、書類申請及び登録面接が必要となります。

7. 申込み方法

次の書類等を持参または郵便等で送付してください。なお、郵便等の場合は、必ず簡易書留(または簡易書留に準ずるもの)で申し込みください。

8、申込受付期間：令和7年1月29日から令和8年1月28日まで、随時受付します。

9、**間合せ先**

おおさかしきょういくいんかじむきょく
大阪市教委員会事務局 しとうぶ
初等・中学校教育担当 しとう
初等・中学校教育グループ

でんわばんごう 電話番号 06-6208-9188

よ てん きょういくいいんかい せいど つうがくしえん ひつようせい みと
良い点①教育委員会の制度で通学支援の必要性を認めてもらつた。

良い点②教育委員会の制度で通字文援の必要性を認めてしまった。
良い点②学園だけではなく、学園内でもサポートができるようになった。(これまで支援員は支援
学校級サポート、補助員は通常学級サポート。担当が分かれていった。)

良い点③子どもとしては馴染みやすい

かだいてん さいしょ りょうにんず せいげん で かのうせい
課題点①最初は利用人数の制限が出てくる可能性がある

詠題^点①最初は利用入数の制限が山くなる可能性がある
かだいてん ひらかたし とよなかし ふくしせいど かくだい ふそく ことわ
詠題^点②坂上を轟き生産の坂土でやつていて ハルパ 不景と些々 これ子ケ フガナズカ

説題点②枚方市や豊中市は福祉制度の拡大でやつていて、ヘルパー不足と断られるケースがあるかもしれませんけど、ほぼ認められている(豊中市50 ケース)大阪市も、ニーズがあることを明らかに

かにして予算をとってもらえるようにしてほしい
かだいてん じぎょうしょ あいしう にんづう あお えら
課題上(の)東洋証との提携 サル タ の 人數が多くないので強制しない

制度の概要是大阪市教育委員会ホームページをご覧ください

大阪府主催 重点整備地区バリアフリー推進連絡会議で 無人駅で困ることについて講演しました

2月17日大阪府主催の「重点地区バリアフリー推進連絡会議」で、障害者が無人駅問題で困ることについて堀が講演をさせていただきました。

これは、対大阪府のオールラウンド交渉で、毎年、「無人化を勝手に進めるのではなく、私たち障害者の意見を聴く場を作ってください」という障大連の訴えかけで、初めて実現したものです。

この会議は、福祉のまちづくり条例に基づいて、バリアフリーを推進するための会議で、大阪府関係課をはじめ、市町村、鉄道事業者、近畿運輸局が集まっていました。

当日は、とても熱心に聞いていただき、具体的な質問も鉄道事業者からありました。引き続き、具体的な課題について意見交換ができる場が設定されるように取り組み続ける必要があります。

(以下、講演の概要です)

無人化で障害者は外出しにくくなっている。障害者を取り残さないで！

コロナ禍で一気に無人駅が拡大して障害者の外出がしにくくなっています。事業者によっては改札無人であっても駅員がすぐに対応できる体制を引くなど、工夫がみられる場合もあることを紹介しました。その上で、「どうか、障害者を取り残さないで、一緒に考えていってほしい」と強く訴えました。

障害者が特に
一緒に考えて
ほしいと思って
いること

○時間が見通せ
ない。無人の
時間帯を公表し

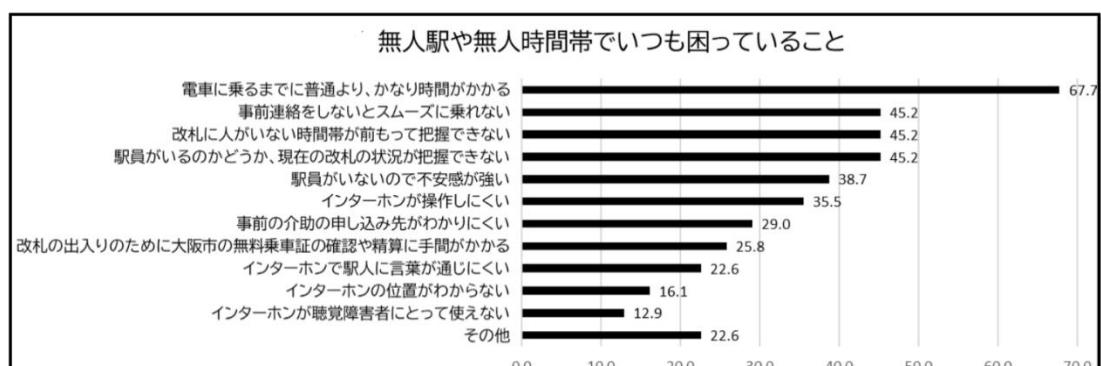
てほしい。

障害者は、乗車するまでに必要な時間が見通せないために、思ったように生活が送れないことが大きな困りごとになっています。介助者との約束など、障害者の生活にとても時間はとても大事です。

○インターホンが障害者にとって使いにくいものが多いです。モニタの設置や蹴り込み、ボタンの仕様など、使えるインターホンについて一緒に考えてほしいです。

○ホームと車両の段差と隙間の解消に取り組んでほしいです。

(時期、バリアフリー整備目標に設定されました) 障害者にとっての負担をいかに減らせるか、一緒に考えてください。



じよせいしようがいしゃたいしよう

こうえんかいさんかほうこく

女性障害者対象ピアカウンセリング講演会参加報告

じよせいしようがいしゃたいしよう
女性障害者対象ピアカウンセリング講演会に参加しました！
こうし つつみ あいこ エヌピーオーほうじんまちだ
講師は、堤 愛子さん(NPO法人町田ヒューマンネットワーク副理事長)です。
さんか まつくる かんそう の
参加した松倉の感想を載せさせてもらいます！

◆強烈なタイトルからどんな話が展開していくのか…？

タイトルが「子宮摘出問題との出会い」だった。強烈なタイトルというか、このタイトルからどんな話が展開していくのかとても興味を持っていた。

1979年車いす市民全国集会(東京)で初の女性障害者問題分科会が発足されたらしい。私も東京出身。東京出身といえども生まれる前の話なので、そんなことがあったなんて知る由もないが、私が生まれたのは1996年。「旧優生保護法」が「母体保護法」へ変わった年である。

◆「子宮を取って良かった」言葉にならない思い

上記の集会でA子さんという人が「子宮を取って良かった」と発言したそうだ。私はその言葉が講演資料に載っているのを見て驚きを隠せなかった。なぜそんなことを言うの？と思いながら先に続く文章を読んでいった。「現在の優生保護法では、月経時の介助が大変という理由での手術は認められないので法改正してほしい」というのがA子さんの主張…。待てよ、それはおかしいじゃないか。言葉にならないような思いが私の身体のそこから湧き上がってきた。もちろんのこと、会場にいた女性障害者たちも反論する。子宮を摘出するということ、「自分も子宮摘出しているが、それは選ばされたのだ」という反論が続出した。そのような反論があつたあたり前だ。この時代、今よりもっと障害者は生きづらい時代で、障害者の出生を抑制しようと国は必死だったのだから。

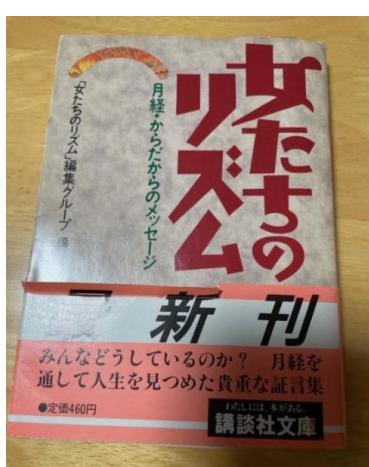
◆とても苦しかった。でもみんなに知ってほしい！！！！

「施設内の恋愛と失恋、行き場のなさ。親にとうとう「子宮を取っていい」と伝えた。親は金の心配をしていた。手術をしたあとに職員から「えらいね」とたくさん言われた。自分が手術をした後くらいから一気に手術をする人が増えていった」(ある女性障害者の言葉)

この話は資料に載っていなかった。堤さんが紹介してくれたある人の話。苦しかった。私が苦しくなる資格な

くてないかもしれない。でもやっぱり苦しかった。障害当事者として。女性として。「尊厳」、「権利」など、何もない時代が本当にあったことを思い知らされた。通信記事に書いて良いのか悩むところもあるが、人の命の問題だから書いて良いだろうと思った。むしろ蓋をされているところに手を突っ込むくらいがちょうどよい。堤さんが資料に載ってくれていた月経がテーマの本も読んでみたい。だれか一緒に議論してくれる人いませんか。絶賛、募集中です！！

ぶんせき まつくる
文責:松倉



おおさかじょうてんしゅかく 大阪城天守閣での階段補助取り組みから見えたこと

つうしん ねん がつごうぞくほう
-通信2024年10月号続報-

【40日間で290人の階段補助を行いました】

2024年11月5日(火)～12月14日(土)の40日間、大阪城広場から天守閣入口までの外付けのエレベーター工事中に伴う階段での車いす利用者等の補助を行いました。

車いす(電動、簡易電動、手動)が4分の3(75%)、歩行はできるが、42段の長い階段、特に下りが難しい人がたくさんおられました。スタッフは急遽募集した

大学生と障害者団体のスタッフ、70人超で組みました。ご協力ありがとうございます。



「重い」から断った人はいません。体重では50～60キロの人が多かったのですが、100キロを超えた人もいました。今回は、階段専用の車いすを使いました。通常の車いすの前後に取っ手を付けました。水平の取っ手があり持ちやすかった(握りやすい)こと、前後に伸びたことで6人でも担げるようになり、女性も含め6人で担げば80キロ超でも楽に介助できました。

階段で車いすを担ぐ時に大切なのは、「重さ」より「持ちやすさ」です。

◇修学旅行の車いす学生30人も、一緒に天守閣へ！

・多くが家族、グループでしたが、修学旅行生(含む遠足)が30人、他の生徒と同じように天守閣に上がりました。
・毎日実際にいろんな人と接し、国や地域性を強く感じました。修学旅行で地域性を強く感じたケースは、東北の普通高校の修学旅行。車いす利用学生(筋ジス)の付き添い男性に「先生ですか?」と声を掛けると「父親です。今回の旅行は県知事から特別にOKをもらい参加できました。条件は親が介護すること」!日本がまだまだインクルーシブ教育になっていない現実を思い知りました。



まいにち きねんさつえい けい まい 每日希望者と記念撮影。計48枚!

◇天守閣の階段より、天守閣にたどり着くまでが大変！?

お城は、山や高い場所にあります。大阪城も上町台地の上。二重のお堀があり、天守閣に行くには北からの極楽橋から、南側の桜門からの2ルート。ただ大阪城公園駅、森ノ宮駅から行くと、途中階段になり、極楽橋から限られます。ところが極楽橋からだと急な坂が2つあり、多くの方が途中であきらめていることを知りました。4月にはホームページで分かりやすいバリアフリールート案内ができると聞いていますが、現地での分かりやすい案内も進めてほしいと思います。(石田)



車いす人力で石段攻略

大阪城天守閣

大阪屈指の観光名所・大阪城（大阪市中央区）で、天守閣へのエレベーターの改修工事に伴い、車いすの利用者を人力で担ぎ上げ、石段を上るサービスが行われている。訪日外国人客にも好評だという。（土屋武嗣）

14日まで エレベーター改修伴い



(上)車椅子利用者を持ち上げて石段を上るスタッフ
(下)現在は改修工事中の天守閣前につながるエレベーター
(いずれも大阪市中央区)



1931年に再建された天守閣の前には42段の石段があり、車いす利用者向けに97年にエレベーター1基が設置された。老朽化で改修工事をすることになり、天守閣を所有する大阪市が対策を検討。一帯は国特別史跡に指定されているため、スロープの設置が難しいことなどから

工事が始まった十一月5日から毎日、スタッフら6～4人が車いすを担ぎ上げ、バランスに注意しながら石段を数分で上り下りしている。利用は多い日で1日15人ほどになるといい、これまでに200人以上の登城を支援してきた。利用者の大半が訪日外国人客だという。

オーストラリアから家族で訪れたりチャード・グローバーさん（57）は、「サポートがなければ、せっかく天守閣まで来たのに変えるところだった。おかげで、展示

人力で担ぎ上げることにした。

大阪城の指定管理者が

事業者を公募し、障害者

NPO法人事務局長の石田義典さん（65）は「せっかくの大坂旅行で『障害者だからあきらめないといけない』という悲しい思いをしてほしくない」と話した。

改修工事が終わる今月14日まで無料で実施している。予約不要で、石段下の受付で申し出る。天守閣内には、エレベーターが2基供えられている。

木戸通雄の部屋

◆3月は木戸通雄の誕生日です

3月といえば、桜咲く、そして木戸の誕生日。

恥ずかしいですが、62回目の誕生日を迎えます。

やっぱり、結婚は遅くなるのだろうなあ。

木戸の予知感では、64歳で出逢い、2回目の婚期、65歳で結婚。

ということで今宮戎でも結婚祈願！！



木戸通雄の部屋



カルビーのキャンペーンガールと木戸通雄



今宮戎神社前で敬礼する木戸通雄

今年の今宮戎1月10日の金曜日、福の神様、商売

繁盛の神様。運命の出逢いはカルビーのキャンペーンガールだった

のだろうか…？（それは数秒後に違うと気付く…。）

元旦の道明寺天満宮では小吉、今宮戎では末吉。髭はボーボー。

髪もボーボー。



小吉と木戸通雄

◆福よ来い！結婚祈願してきました

1月19日の日曜日、先勝の日に瓜破の散髪屋「カットマン」でスパー

ツ刈り、顔そりシャンプー込みで2090円。夢想のない木戸に福来るか！？



1月20日月曜日に通所スタッフとお初天神へ。

産まれて初めての、本格的な結婚を前提とした恋をするぞ。オーラー！！

お初天神の中というのは、いつも失礼ですが、木戸のような年齢の男性と女性の方がいっぱい。

一心不乱に全身全霊をかけ結婚を祈願する。

◆読者の皆様すみません、先に謝ります。

58歳の時は、島根県の出雲大社で結婚祈願。

一昨年の59歳の秋から春にかけて、梅田のお初天神で祈願して
きた。

占い師の話では、10代から30代の間に、結婚の可能性はあり
えたという。

生前の母が言うには、『姉が家にいると…』

…読者の中には姉に産まれた人、又は姉を持つ人、どうもすい
ません。ここに謝罪しておきます。ご了承下さい。

『姉が家にいると、うるさくて嫁が来ない』といつも、母が教訓のよ
うに言っていました。

姉が39歳くらいで嫁に行つたものですから。



通所でやった書初め「結婚祈願」



◆木戸通雄、30代の頃はモテていたんです

こんな事を自分で言うのも何ですが、36歳の頃、木戸はカ
ッコよかったです。女性にはよくモテていた。音楽のコンサートにも誘われた。

今年のプロ野球はまだ開幕していませんが、今年も作業所
の皆さんと一緒に、赤おに猛虎会でタイガース必勝祈願に
いかれるのでしょうか？

今年、新しい藤川阪神は「抑えの野球」の伝統を引き継い
でほしい。

やっぱり木戸は福岡ソフトバンクホークスと同じ西日本の
九州、博多が好きやねん。

本当に九州、福岡ドームに行くぞお！

はたして、65歳での福岡旅行は夢の新婚旅行か、ヘルパー
さんとの旅行になるのか？

ちゅうぶ通信4月号へと続く。



(文責:木戸)

250211マノスタグラム

ながおかてんじんういすおくやま
長岡天神with奥山さん

お待ちかねの真野スタです。

しんじんしょくいん おくやま きょうとふながおかきょうし
新人職員の奥山さんと京都府長岡京市にある

ながおかてんじん いとうじつ かいせい
長岡天神に行きました！当日は快晴でした！

ひる はん た はなぐるま くるまいす
お昼ご飯を食べた「花車」は車椅子トイレ
めっちゃ広かった！

ながおかてんじん もまいえき ながおかてんじんえき ちかの
長岡天神の最寄り駅（長岡天神駅）近くの

としょかん ながおかきょうしりつとしょかん きゅうけい
図書館（長岡京市立図書館）でゆっくり休憩

でき まん こしゅいん
出来て良かった(*'艸')



「はなぐるま ひるごはん♪」

ちゅうしゃじょうよこ けいしゃ きゅう きゅう ほほ ぶじ
駐車場横の傾斜が急なスロープを上って無事に
さんぱい ごしゅいん
参拝できました！御朱印もゲット！



ごしゅいんゲット★



ながおかきょうしりつとしょかん きゅうけい
長岡京市立図書館でゆっくり休憩できた！



かいだんのは この階段登るのか…！？という驚きの表情？



ぶじ さんぱい
無事に参拝できました！！

きょうりょくかいひ

きょうりょくしゃめいば

協力会費・カンパ協力者名簿

佐野 欣満 さん かみたに 利彦 さん	(東京都) あまがさきし (尼崎市)	石橋 久美子 さん いしばし くみこ 木戸 泰弘 さん きど やすひろ	(羽曳野市) みえけん (三重県)
------------------------	--------------------------	--	-------------------------

がつ にちげんざい
2月27日現在

きょうりょく ご協力ありがとうございました (担当: 安東)

「冬野菜」



※冬野菜はゴボウ、ホウレン草の他、レンコン、大根、白菜、長ネギなどがあります。この写真は2月17日に撮影しています

青おにくん:

「2月13日から皆さんにはここにいてもらってるんで、寒波のときや
雨の時も吹きさらしですみません」

五人囃子Aくん:

「いや、ホントだよ、ボクたちって普通は屋内だよね」

三人官女Aさん:

「でも全員参加なら裕福で大きな家じゃないと無理だよ」

五人囃子Bくん:

「手乗り位 の小さいおひなさんでいいんだよ」

三人官女Bさん:

「まあそうなると、彼ら三人官女や五人囃子さんはカットでしょうね…。」

全員:「では、皆さん、ハッピー！ピーチフェスティバル!!」



2025年3月スケジュール

3月21日	金	障大連続研修会「医療觀察法、講師：大阪保護観察所調整官ほか」18時～20時@コミセン（森の宮）
3月22日	土	「同じ景色がみたい、講師：尾上浩二さん&西口昭子さん」13時半～@東成区社会福祉協議会3階
3月22日	土	チームかな子伝えるプロジェクト（映像＆シンポ、三澤了基金助成）13時～@生野区民センター
3月27日	木	JIL差別解消・合理的配慮連続ラスト企画「鈴音が行く！（あるる企画）」@都島区民センター
3月28日	金	JIL差別解消・合理的配慮連続ラスト企画「鈴音が行く！（ちゅうぶ＆ナビ企画）」@ちゅうぶ

●この間感じるのは「分断」。ネットのニュースも毎日トランプがらみの記事が多いが「怖いもの見たさ」に近い。外交も基本取り引き（ディール）だが、単なる誇張でもなく根拠のない嘘をいくら言っても許される状況は一番怖い。日本の芸能人は良くはないことだが、個人的なミスで一瞬でテレビから消えると対照的だ。分断をうまく利用しているように見えるが、その代償は大きい。この間DEIという単語を意識するようになったが、アメリカでは侮辱する言葉としても使われてるらしい。「カマラハリスはDEI候補だ！」など。多様性、インクルーシブが目指すべき理念ではなく、真逆な言葉になってる。ほんまか！？アメリカでも障害者がどう扱われているのか気になる。CILなど障害者団体への補助金カットが進んでいるとは聞くが、実態はどうなのだろう。露骨な能力主義が進んでいるのかもしれない。機関銃のように出される政策変更に神経がマヒしそうだ。でも自分たちの組織、障害者運動の中でも実は分断が進んでいるのかもしれない。「仲よくしよう」では解決しない。しかも自分が実は当事者（加害者）かもしれないってのがやっかいだ。それを乗り越える理念や「楽しさ」が求められている。（いした）

●初めての編集後記で何を書けば良いか全く意味が分かってないです。何でもいいよ、何でも挑戦してみてと言われ、とりあえず書きます。ちゅうぶで来て早2年。未だに分からない事だけ。障害者・健常者との違いって何。車いすってどう押すん。え、身体介護あるん。から始まっちゃう生活。僕、前まで精神的メインの就労継続支援B型事業所で働いてたから、ちゅうぶも就労継続支援B型事業所と間違って人社したんだよなあ。と悶々としながら毎日を過ごしている。でも一つ、障害者と重度訪問介護を用いて障害者と関わる事で世界は広がりまくり。毎日発見。なんだその視点、面白過ぎるだろ。障害者の日常生活ってこんな感じなんだ。まさか研修期間中に障害者と一緒に銭湯行ってと言われると思ってなかった。面接で障害者とお風呂行きたいとはいったけど判断早すぎない？この会社。と思う毎日。数年に1回行く港区の占い師に『あんた、今障害者と関わる仕事をしてるやろ？天職やで。障害者と一緒に歩み続ける人』と言われ、何だこの人、仕事を話したことないのに怒るだろ。けどいつも当たってるんだよなあ。と思いながら数年に1回アドバイスもらっています。ほんとにこれでいいのか編集後記（たかで）

●ここにちは。昨年はすべてに異動になったり、今年は1月に祖父が亡くなったりと色々なことがあります。昨年から色々とあります、昨年の「ベストオブ勧弁してくれ～！！」と思ったことを紹介したいと思います。それは昨年の2月頃（約1年前）にありました。自宅にて洗濯物を回しながら、網戸掃除をしていると、急に網戸が外れ、取り付けができなくなりました。網戸と2時間近く格闘しましたが、取り付けできず、そうこうしている間に洗濯が終わって、洗濯機から洗濯物を取り出そうと思ったら、取り出し蓋が開かず、故障・・・。「マジか！そんなバカな！！そんなふつ壊れフェスはいらん！！」と思い、自分でどうにかしようとしました。しかし、結局、自力ではどうしようもなく、業者を呼び、洗濯機は修理、網戸は業者曰く完全に壊れていたので、買い替えをする羽目になりました。約7万円近くの出費となりました② ああ～どうか今年は「ぶつ壊れフェス」が起きませんように・・・と思う今日この頃です。

（たんなか）

【東住吉区障がい者基幹相談支援センター】
【自立生活センター・ナビ】

〒546-0042 東住吉区 西今川2-3-8
電話 = 06(6760) 2671
ファックス = 06(6760) 2672



【障害者活動センター 赤おに】
〒546-0031 東住吉区 田辺5-6-10
電話 = 06(6623) 7300
ファックス = 06(6657) 5010

【グループホーム・リオ】

〒546-0032 東住吉区 東田辺

2-21-21

でんわ&ファックス

= 06(6608) 5244

【ヘルプセンター・すべて】

NPO法人ちゅうぶ 2階

電話 = 06(4703) 3741

ファックス = 06(6628) 0271

【障害者活動センター 青おに】

NPO法人ちゅうぶ 1階

電話 = 06(4703) 3742

ファックス = 06(4703) 3743

編集：特定非営利活動法人
エヌピーワークス

【NPO法人 ちゅうぶ】

〒546-0031

大阪市東住吉区田辺5-5-20

電話 = 06(4703) 3740

FAX = 06(6628) 0271



ホームページ=https://npochubu.com/

メールアドレス=chubu@npochubu.com

郵便振込口座：00960-6-313427

通信定期購読料=1年間2,000円